

=== T A C S 情報 第2号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和6年6月4日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月上旬の平均気温は、16.6℃（対平年差+0.3℃）と平年並であった。

5月中旬の平均気温は、18.5℃（同+1.3℃）と平年に比べ高かった。

5月下旬の平均気温は、18.4℃（同-0.6℃）と平年に比べ低かった。

(2) 降水量

5月上旬の降水量は、28.5mm（対平年比65%）と平年並であった。

5月中旬の降水量は、67.0mm（同156%）と平年に比べ多かった。

5月下旬の降水量は、133.0mm（同368%）と平年に比べかなり多かった。

(3) 全天日射量

5月上旬の平均全天日射量は、18.8MJ/m²/日（対平年比106%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の平均全天日射量は、18.7MJ/m²/日（同103%）と平年並であった。

5月下旬の平均全天日射量は、16.6MJ/m²/日（同87%）と平年に比べ少なかった。

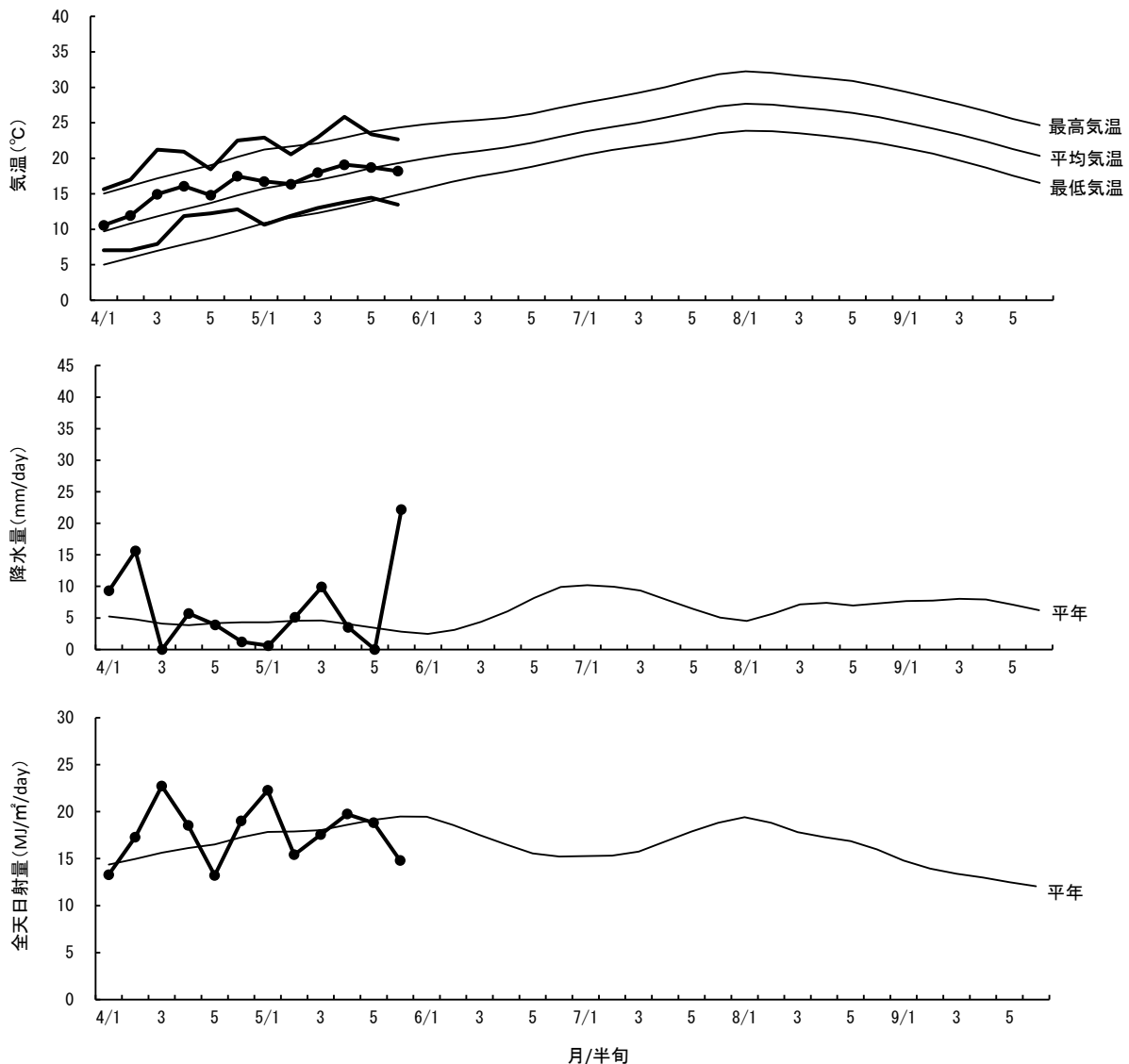


図1 令和6年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

(1) コシヒカリ

平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はかなり少なく、葉齢は0.5葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月14日	27.3	6.4	136	5.8	4.1	30.6
R5	5月13日	28.7	9.7	212	6.4	4.2	35.9
平年	5月14日	28.0	9.0	195	6.3	4.1	35.2
前年比・差	1	95	66	64	-0.6	-0.1	-5.3
平年比・差	0	97	71	70	-0.5	0.0	-4.6

注) 平年 : H26~R5年の平均

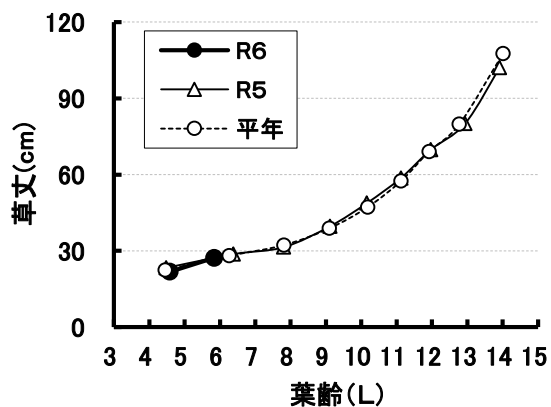


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

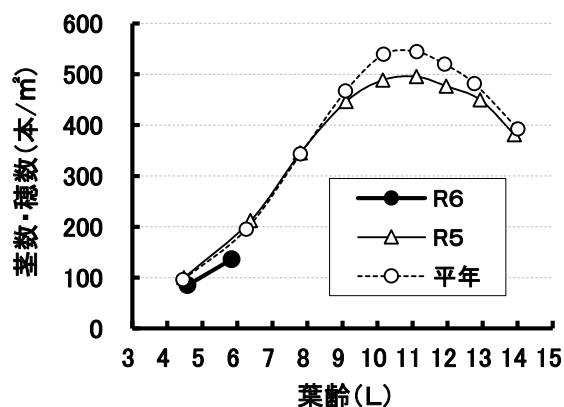


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

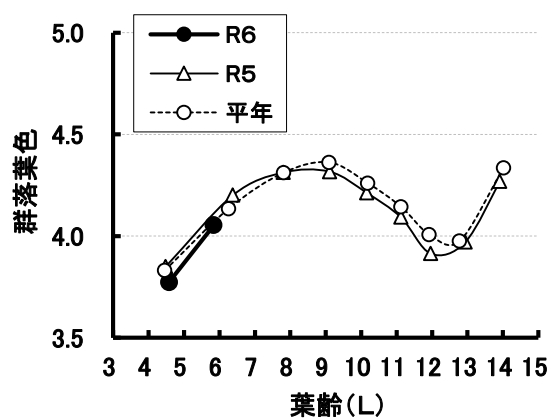


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

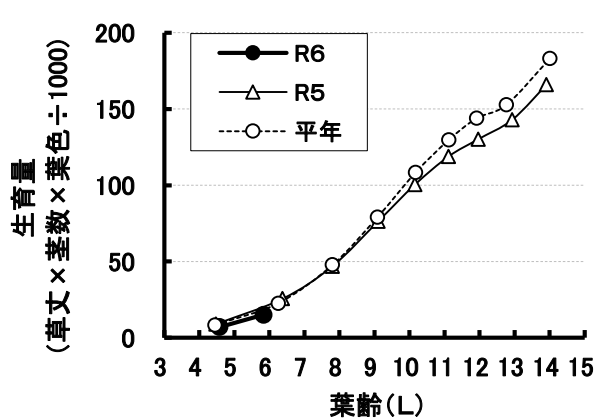


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(2) てんたかく

平年に比べ、草丈、葉齢は並、茎数は少なく、葉色はやや淡くなっている。

表2 「てんたかく」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月2日	27.0	12.5	267	7.9	4.3	39.3
R5	5月3日	27.8	14.5	309	7.9	4.5	39.4
平年	5月4日	28.4	14.9	320	7.9	4.5	40.2
前年比・差	-1	97	86	87	0.0	-0.2	-0.1
平年比・差	-2	95	84	83	0.0	-0.2	-0.9

注) 平年 : H26~R5年の平均

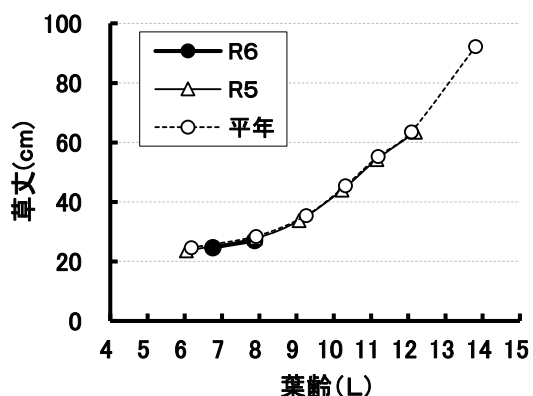


図6 草丈の推移 (生観てんたかく)

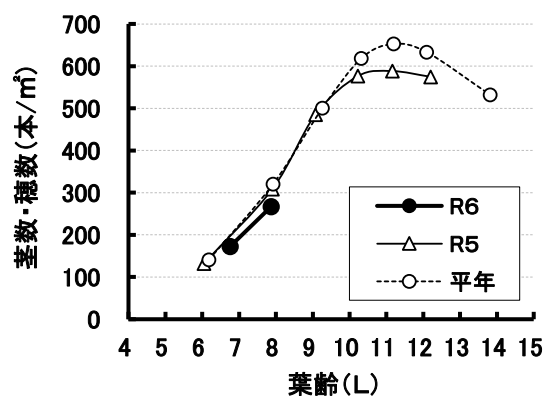


図7 茎数の推移 (生観てんたかく)

(3) てんこもり

平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はかなり少なく、葉齢は0.2葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表3 「てんこもり」生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月8日	25.7	10.8	201	7.2	4.4	34.8
R5	5月10日	26.0	13.1	251	7.1	4.4	39.1
平年	5月8日	25.4	14.1	267	7.4	4.4	39.0
前年比・差	-2	99	82	80	0.1	0.0	-4.3
平年比・差	0	102	76	75	-0.2	0.0	-4.2

注) 平年 : H26~R5年の平均

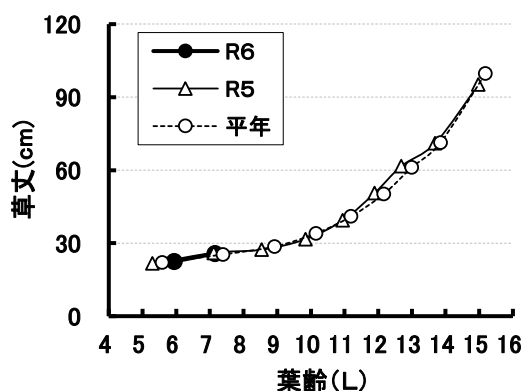


図8 草丈の推移 (生観てんこもり)

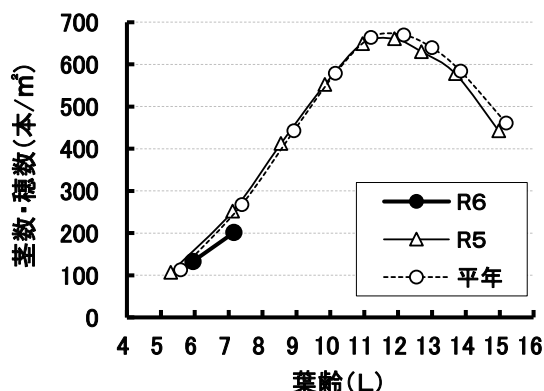


図9 茎数の推移 (生観てんこもり)

3 当面の技術対策

- ・ 根圏の健全化と無効分けつの発生を抑制するため、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・ 中干し後は間断かん水を実施し、地耐力を確保する。

(1) 溝掘り・中干しの徹底

① 「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場の管理

- ・ 中干し開始時期を迎えているほ場では、早急に中干しを実施する。

② 「コシヒカリ」の管理

- ・ 根圏の健全化と無効分けつの発生を抑制するため、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。 なお、溝を設置していないほ場では、早急に溝掘りを行う。
- ・ 現在、茎数が平年に比べ少ないことから、一度に干し上げるのではなく、「田面に小さな亀裂が入る程度」の中干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

(2) 中干し後の水管理

- ・ 中干し後は間断かん水を実施し、地耐力を確保する。 なお、葉色の急激な低下を防ぐため、中干し後の間断かん水は、乾かしすぎないように注意し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。

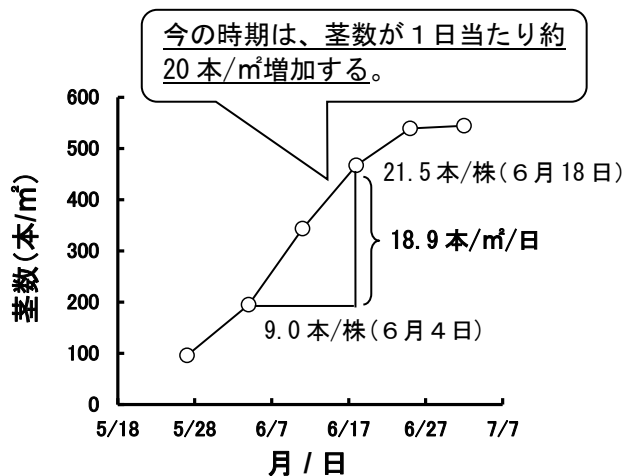


図10 茎数の推移 (生育観測ほ平年値)

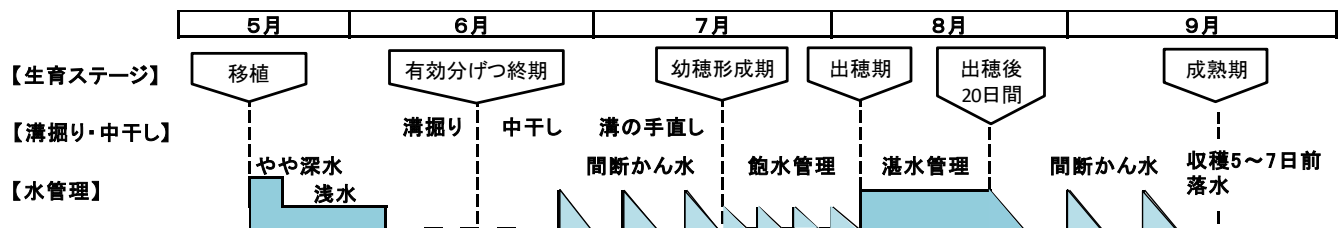
注) H26~R5の平均

中干しの終了時に、ほ場中央部でくるぶしまで軽く沈む程度を目安とする。



写真 中干し終了時点のほ場の状態

<水管理のイメージ>



「田面に小さな亀裂が入る程度」の中干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

中干し後の間断かん水は、乾かし過ぎないように管理する。

(3) 病害虫防除

<斑点米カメムシ類>

- ・暖冬や春先の好天により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の発生が多くなっている。
- ・今後、気温の上昇に伴い発生量が多くなると見込まれるので、イネ科雑草の穂が出ないよう草刈りを徹底する。
- ・本田内のノビエやホタルイも、斑点米カメムシ類による被害を助長するので、除草に努める。

※草刈り運動期間：6月28日（金）～7月7日（日）

一斉草刈り日：6月29日（土）～6月30日（日）

<いもち病>

- ・苗箱施薬を施用していない場合は、予防粒剤を6月20日頃までに散布する。
- ・BLASTAM情報（農業研究所）を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

※平年の葉いもちの初発確認日は7月10日（R5：7月5日）

BLASTAM情報（葉いもち予測システム）はこちらから
（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）



<紋枯病>

- ・前年多発したほ場や紋枯病に登録のある苗箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3～4週間前（粒剤）または、穂ばらみ期（粉剤、液剤等）に防除を行う。

※平年の紋枯病の初発確認日は6月25日（R5：7月5日）

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈は並、茎数はかなり少なく、葉色は淡く、葉齢は0.7葉遅れている。
 葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月4日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月17日	24.3	5.8	126	5.4	4.0	31.2
R5	5月16日	26.3	8.8	188	6.0	4.3	35.7
近年	5月15日	25.6	8.5	182	6.1	4.2	35.3
前年比・差	1	93	66	67	-0.6	-0.3	-4.5
近年比・差	2	95	68	69	-0.7	-0.2	-4.1

注1) R5：10ほ場平均（生育観測ほ：4ほ場、栽植密度・遅植え・プラ改善（うち立山、小矢部）対照区：6ほ場）

注2) 近年値：H29～R5の平均

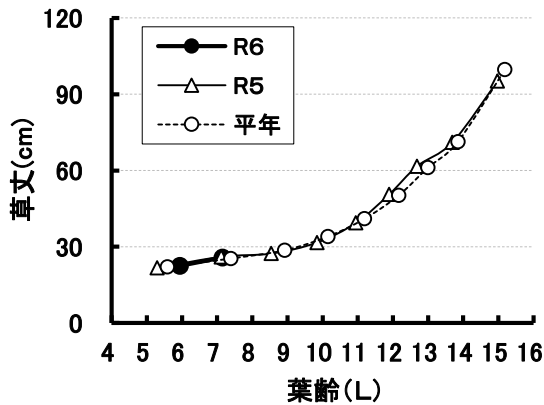


図1 草丈の推移（生育観測ほ等）

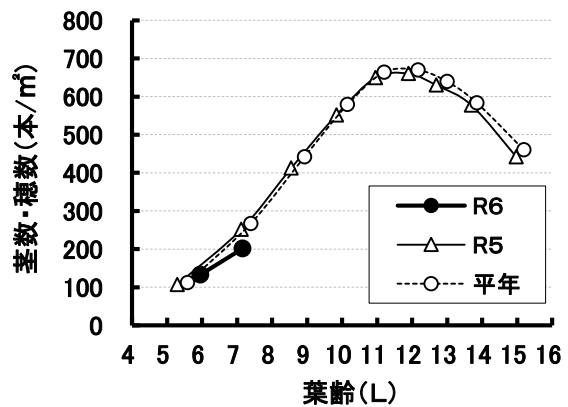


図2 茎数の推移（生育観測ほ等）

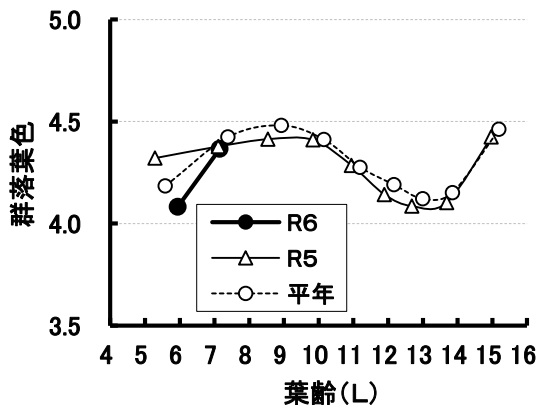


図3 葉色の推移（生育観測ほ等）

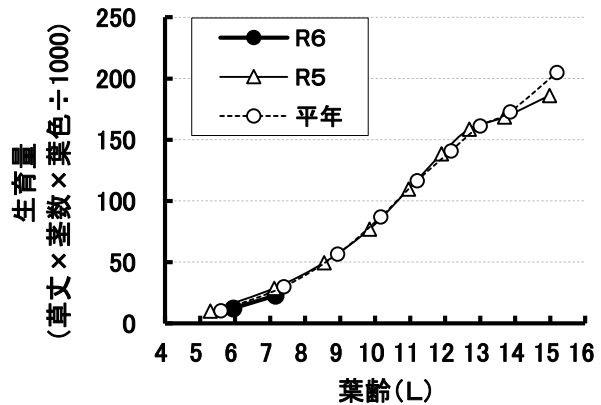


図4 生育量の推移（生育観測ほ等）

2 当面の技術対策

- ・ 根圏の健全化と無効分けつの発生を抑制するため、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・ 適正籾数に誘導するため、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。

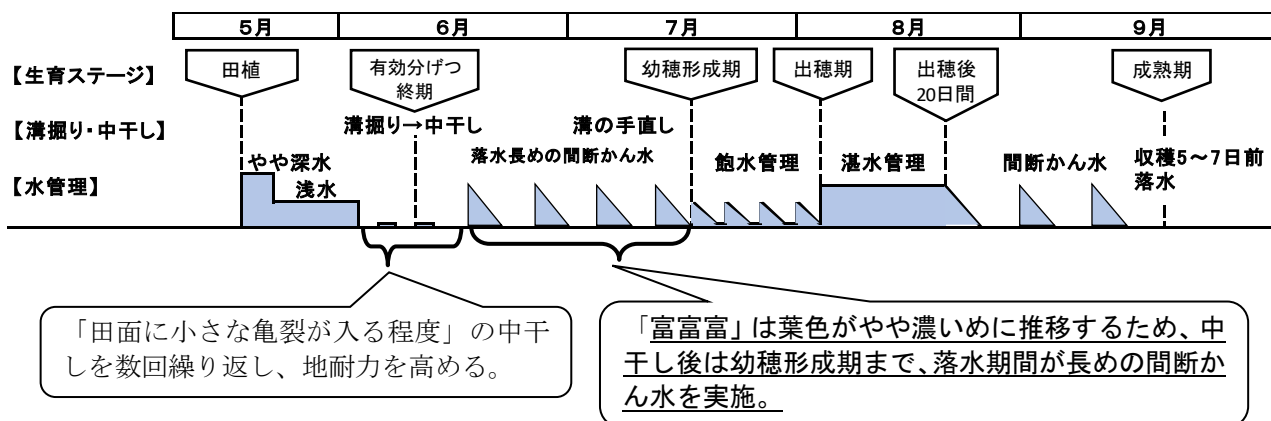
(1) 中干しの徹底

- ・ 根圏の健全化と無効分けつの発生を抑制するため、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。 なお、溝を設置していないほ場では、早急に溝掘りを行う。
- ・ 現在、茎数が平年に比べ少ないことから、一度に干し上げるのではなく、「田面に小さな亀裂が入る程度」の中干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

(2) 中干し後の水管理

- ・ 「富富富」は葉色がやや濃いめに推移することから、適正籾数に誘導するため、中干し後、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期のSPAD値を35（群落葉色4.0）程度に誘導する。

<水管理のイメージ>



(3) その他の管理

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるよう留意する。

次回の調査日は6月11日（火）です。
生育調査及び溝掘り・中干し状況の確認をお願いします。